

## 目標達成計画

事業所名 満快のふる郷さくら千歳

作成日: 平成26年2月14日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	入居してから年数がたっている利用者様もいるため災害時の一時避難場所を家族に改めて伝えておいたほうが望ましい。	入居されている利用者様のご家族に災害時の一時避難場所を通知し、災害時に連絡等の混乱が起きないようにする。	在所確認表送付時に一時避難場所の明記された書類を同封する。	1ヶ月
1	6	不適切ケアとは何かを考え、職員ひとり一人の意識の違いや捉え方の違いがあり、それぞれの利用者様にあった支援が十分出来ていない。状況によっては何気ない言葉の中になど不適切なケア(スピーチロック)となってしまう場合が潜んでいる。	利用者様ひとり一人の状況に応じ、大きな声や一方的な説得といった関わりを見直し、現象の背景を理解した上でケアを行うことが出来る。	年4回(3月、6月、9月、12月)不適切ケアについての勉強会をユニットで行い、日常に潜む不適切ケアの洗い出しと改善策を講じ、実践する。3ヶ月毎に前回の改善についての評価も同時に行っていく。	12ヶ月
2	27	介護計画の実施を基に実践内容を介護計画に全て直接反映することが出来ていない。ケアを通して介護計画の見直し、改善に結びつけていくことが課題。	介護計画の実践を通して利用者様の現状に即した支援を行い、都度改善に結びつけていくことが出来る。	毎月のユニットカンファレンスを通して介護計画の実施状況と目標達成に向けての進捗状況を確認し、ケアのあり方について職員全員が同じ方向でケアを行っていく。(Eシートを使用した原因背景・根拠を探り、より良いケア方法を導き出す)	12ヶ月
3	33	重度化や終末期支援に対して経験した事がある職員が少なく対応マニュアルを整備しているが全員が対応出来ていない。	マニュアルや介護計画に則って統一された終末期ケアを行うことが出来る。	終末期についての勉強会をユニット会議の中で取り入れる。また、ターミナル研修参加者やターミナル経験者からの伝達講習を行う。(終末期の方が辿る身体的特徴・経過など具体的な内容にて)	12ヶ月
4	34	緊急、救急時、防災マニュアルを整備しているが、全職員が対応出来ていない。	緊急対応の必要性を職員が理解し、緊急時にマニュアルに則った適切な対応が出来る。	年2回(4月、9月)緊急対応についての勉強会をユニットとして行う。また、緊急時のフローや連絡体制、救急搬送時の対応など場面に応じて細かく対応についての勉強を行っていく。	12ヶ月
5	38	予定に組み込まれている外出支援以外に利用者様の状況や天候などに応じてその日の個別の外出支援が十分出来ているとは言えない。	利用者様の状況や希望に応じた個別の外出支援を臨機応変に組み込むことができる。	週間予定表のみに行動を限定されることなくその日の状況に応じて職員同士で話し合い、一日の流れを把握し、個別支援を行えるようにする。その日の流れや組み立てに関しては役職や先輩職員の意見やアドバイスのもと実行する。	6ヶ月
6	2	町内の催しや小学校・中学校との定期的な交流はあるものの地域住民から認知症の方の生活を受け入れてもらいにくい現状がある。	地域で生活しているという当たり前の姿を通して町内の方々に理解、受け入れてもらうことが出来る。(催し参加の時など町内の方から声をかけられることが以前よりも増える)	近隣のスーパーへ買い物に行ったりと地域の中で当たり前暮らす様子を見てもらうことが出来るように個人のニーズにあった外出支援を行っていく。また、近隣の施設(幼稚園・保育園・小学校・中学校)と定期的な交流を図っていく。	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。